

## 8月20日のウクライナ情報

安齋育郎

### ●スコット・リッター氏、ウクライナについて語る(2022年8月18日)

「この紛争は終わる。決定的な、戦略的なロシアの勝利で終わるだろう。ロシアは自らを守っている。人々は2014年5月にオデッサで起こったことを学ぶ必要がある。ロシアは歴史の正しい側にいる」。

※安齋注:下の映像は英語で、日本語字幕はありません。

[https://twitter.com/edgawanewcomer/status/1560164680144125952?t=emddQ0\\_P3MNCTFk4fcw96A&s=09](https://twitter.com/edgawanewcomer/status/1560164680144125952?t=emddQ0_P3MNCTFk4fcw96A&s=09)

### ●不気味な戦争ロボット(2022年8月17日)

<https://twitter.com/Jano661/status/1559559844205821952?s=20&t=MLItMeun9GhYWUJAp1VYZw>



### ●ロシア軍の戦果の報告(2022年8月17日)

## ロシア軍戦果詳細

### 連合軍がウクライナ軍のジュネーブ条約違反を発見

8月14日、第72機械化旅団の跡地でロシア兵がフランス製のEMP F2対戦車地雷を50台発見。(Artemosvk) この地雷は解除装置が付いておらず、1980年10月10日ニューヨークで合意されたジュネーブ条約第2議定書の要件を無視。

### 集中攻撃

第72自動化歩兵旅団、50人のナチス、6基の軍設備破壊 (Artemovsk, Donetsk)

### 陸軍航空隊+ミサイル隊

◆司令部破壊 x 7 第14機械化旅団(Soledar, Donetsk) 他  
182箇所軍キャンプ破壊  
◆防空レーダー破壊 x 1 (Bashtanka, Nikolaev) 武器庫破壊  
x 1 (Zaitsevo, Donetsk) 燃料施設破壊 x 1 (Andreyevka, Kharkov)

Aug 16, 2022

### 高精度ミサイル(空)

第46空挺旅団の第3隊の司令部とコントロール部を破壊  
(Andreyevka, Kherson)一時基地でナチス20人死亡30人負傷(Lozovoye)

### 対砲撃隊

◆Grad多連ロケット隊 x 3 (Vladimirovka, Donetsk Verkhopol'ye, Kharkov)

◆Giatsint-B隊 x 3, D-30榴弾砲隊破壊(Novomikhailovka, Zvanovka, Seversk, Artemovsk, Bakhmutskoye, Yakovlevka, Donetsk)

### 防空隊

UAV破壊 x 2 (Topolevka, Lugansk, Charivnoye Kherson)

多連ロケット阻止 x 3 (Novognatovska, Donetsk, Kamenka, Doroshenkovo, Kharkov)

## ●ウクライナにとって不愉快な真実が明らかになりつつある(バトゥコ・ミラチッチ、2022年8月7日)

2月に始まったロシア侵略と戦う上で、ウクライナ軍は、学校や病院を含め人口が多い地域に基地を設置し、兵器を操作して、一般人を脅かしているとアムネスティ・インターナショナルが声明で述べた。

「このような戦術は国際人道法に違反し、民間の建物を軍事目標に変えるので、一般人を危険にさらす。人が多い地域へのロシア攻撃は、一般人を殺害し、民間インフラを破壊した」と声明は述べていた。

アムネスティ・インターナショナルは、作戦を行う際、人が多い地域で一般人を危険にし、戦争法に違反するウクライナ軍のパターンを文書化したと、アムネスティ・インターナショナルのアグネス・カラマール事務局長が述べた。

防衛陣地、国際人道法尊重の義務からウクライナ軍を解放しないと彼女は指摘した。

4月から7月まで、数週間、この団体の研究者は、ハルキウやドンバスやムィコラーイウ地域でのロシア攻撃を調査して過ごした。

団体は攻撃された現場を確認し、生存者、目撃者、攻撃犠牲者の親類にインタビューし、武器の遠隔探知と分析を実行した。それら調査の間に、ウクライナ軍が人口稠密な地域から攻撃をしかけ、これら地域の19の町や村の民間ビル内にいた証拠が発見された。組織は更に、これら事件の一部を確認するため衛星画像を分析したと強調している。

アムネスティ・インターナショナルによれば、兵士がいた住宅地域の大部分が、前線から数キロの距離だった。

一般人を危険にさらさない、近くの軍事基地や、樹木が密集した地域や、住宅地域から遠い他の建築物を選択することが可能だった。文書化した事例で、アムネスティ・インターナショナルは、住宅地域の民間建物に配備されたウクライナ軍が、一般人に避難するよう頼んだり、支援したりするのを見ておらず、民間人を保護するための、あらゆる実行可能な配慮をし損ねているという。

### 人が多い地域からの狙い砲撃

アムネスティは、ドンバス、ハルキウとムィコラーイウ地域でのロシア攻撃の生存者と目撃者が、攻撃時、ウクライナ軍が、彼らの家の近くで作戦を行い、地域をロシア軍からの反撃に晒したと研究者に述べたと述べている。アムネスティ・インターナショナル研究者は、多数の場所でこのような行動を目撃した。

国際人道法は、全ての紛争の締約国に、人口が集約した地域内や近くに、軍事標的を配置するのを可能な限り避けるよう要求している。一般人を攻撃の影響から守る他の義務には、軍事標的の付近から一般人を遠ざけ、民間人に影響を与えるかもしれない攻撃に関して有効な警告を提供することが含まれる。

軍は我々の隣家に配置され、息子は兵士にしばしば食物を持っていった。私は身の危険を危惧して、近寄らないよう数回懇願した。午後、攻撃が起きた時、息子は庭に、私は家にいた。彼は即死した。彼の遺体はバラバラになった。家は部分的に破壊されたとニコラエフの南にある村で 6 月 10 日ロケット攻撃で無くなった男性(50)の母親が言った。

アムネスティ・インターナショナルは、彼女の隣家で軍装備品と制服を発見した。

ロシアが頻繁に標的にし、少なくとも一人が死亡したドンバスのリシチャンシク地区に暮らすニコラは「我々の軍は、なぜ野原からでなく都市から発砲するのか」わからないと言った。

もう一人の住民が「近所で、確実に軍事活動がある」と言った。

我々は「発射」と「着弾」砲声を聞いている」と彼は言った。

アムネスティ・インターナショナルチームは、住民が使用しており、年配の男が殺された地下シェルターの入り口から 20 メートルにある住宅を兵士が使っているのを見た。

5 月 6 日、あるドンバスの町で、ウクライナ軍が大砲要員を配置している主に平屋か二階家の付近で、ロシア軍がクラスター弾を使った。弾丸の破片は、アナ(70)が息子と 95 歳の母親と住んでいる家の壁を傷つけた。

7 月初旬、ニコラエフ地域で、ロシア軍が農業倉庫を攻撃した際、農夫が負傷した。攻撃の数時間後、アムネスティ・インターナショナル研究者は、穀物貯蔵区域で、ウクライナ軍要員と車の存在を目撃し、一般人が暮らし、働いている農場の真向かいの倉庫を軍が使っていたことを証人が確認した。

ハルキウや、ドンバスやムィコラーイウ東部の村の住宅や公共ビル損害を研究者が調査した際、彼らは近くのウクライナ軍陣地からの砲声を聞いた。

バフムートでは、ウクライナ軍が、高層ビルの道の反対側、20 メートルもない場所の建物を使っていたと数人の住民が言った。5 月 18 日、ロシアのロケットが建物の前部に命中し、5 棟のアパートを部分的に破壊し、付近のビルに打撃を与えた。

### 病院内の軍事基地

アムネスティ・インターナショナル研究者は、ウクライナ軍が 5 つの場所で病院を事実上の軍事基地として使うのを目撃した。2 つの都市で、多数の兵士が病院で休み、食べていた。もう一つの町では、

病院近くから兵士が発砲した。

ウクライナ軍が敷地に基地を設置した後、4月28日のロシア空爆がハルキウ郊外の医療研究所で二の労働者を負傷させた。病院を軍事用途に使用するの国際人道法の明確な違反だ。

### 学校の軍事基地

ウクライナ軍は、ドンバスやムィコラーイウ地域の市や村の学校に、頻繁に基地を設置している。紛争が始まって以来、学校は一時的に学生には閉じられていたが、ほとんどの場合、校舎は民間住宅地近くにある。

訪問した29の学校のうち22校で、兵士が家屋を使っていたことや、現在あるいは以前の軍事活動の証拠を研究者が発見した。軍装備品、弾薬や、軍用食パックや軍用車両だ。

ウクライナ軍に使用されている多くの学校をロシア軍が攻撃した。少なくとも3都市でのロシアによる学校爆撃後、ウクライナ兵士は、周囲に類似の攻撃の危険をもたらして、近くの他の学校に引っ越した。

オデッサの東にある市では、アムネスティがウクライナ兵士が、民間住宅地域を、宿泊施設と部隊集結地として利用し、木の下に装甲車両基地を設置するのを含め、人口が密集した住宅地域にある二つの学校を使うのを目撃した。

### 結論

アムネスティ・インターナショナル報告は専門家の私にとって驚きではなかった。紛争の初めから、ウクライナ軍の行動と戦術を見守っていた我々全員、国際法で厳密に禁止されている、このようなウクライナ軍の戦術を目撃してきた。同様にロシア外務省も、無辜の一般人を脅かすウクライナ軍の行動を警告した。だが尊敬されるアムネスティ・インターナショナルが報告でそれについて書いた事実は戦略的転換を表している。これが極めて尊敬される欧米非政府機関であることに留意し、欧米でさえ、ウクライナ軍の犯罪行動は、もはや大目に見られないという意見がゆっくり拡大しているとはっきり言える。

記事原文の url:

<https://thesaker.is/an-unpleasant-truth-for-ukrainians-is-coming-to-light/>

## ●悪いのは米国とウクライナ政府(田中宇、2022年8月17日)

ザポロジエ原子力発電所は、ウクライナ南東部にある欧州最大の原発だ。2月末にウクライナに侵攻したロシア軍は、ウクライナ側がロシアを脅すためにこの原発を破壊すると言い出したり、原発の核燃料を転用して核兵器を作ろうとせぬよう、この原発を占領した。ウクライナ軍はロシア軍よりはるかに弱いため、そのようなことをしかねなかった。露軍は原発を占領したが、ウクライナ側の要員に原発の運転を続けさせ、原発は平常通りの電力供給を続けてきた(戦時で産業が停止し電力需要が少ないため平時の7割の出力で運転)。(There's a nuclear catastrophe on the horizon in Ukraine) (Medvedev blames Kiev, West for attempts to stage another Chernobyl at Zaporozhye NPP)

8月5日以降、この原発の原子炉や使用済み核燃料貯蔵プール、冷却水貯蔵ダムに対し、ウクライナ軍が攻撃を仕掛けるようになった。ウクライナ政府は「原発を攻撃しているのはロシア軍だ」とウソを言っている。、米国側の政府やマスコミはいつもの通りウクライナが発するウソを簡単に信じ、欧米政府やG7は「ロシアは原発への攻撃をやめろ」「ロシアは原発の占領をやめて管理をウクライナに戻せ」と表明している。ロシア政府は「原発を攻撃しているのはウクライナ軍であり、このまま攻撃が放置されると原子炉や使用済み核燃料が破壊され、放射能が漏れて大変なことになる」と警告している。チェルノブイリやフクシマを越える核の大事故が起きる懸念がある。(UNSC Holds Emergency Meeting As Smoke Observed Rising Over Zaporizhzhia Nuclear Plant) (G7 top diplomats call on Russia to hand over Zaporozhye NPP to Ukraine)

地元の露側当局者によると、ウクライナ軍は、米国からもらった精密誘導弾も使ってザポロジエ原発を攻撃しており、すでに数十発を撃ってきた。使用済み核燃料貯蔵庫から10メートルしか離れていない場所に着弾した誘導弾もあった。貯蔵庫に命中すると、冷却が失われた使用済み核燃料は放射能漏れや爆発を引き起こす。(Ukraine bombs nuclear waste storage site)

ロシアは国連安保理を招集し、ウクライナ軍の攻撃でザポロジエ原発が危険な状態になっていることを訴えた。国連の事務局は、誰が原発を攻撃しているのか曖昧にしたまま危険を認知し、IAEA(国際原子力機関)が調査団を組織して現場に派遣する話が持ち上がった。だが、これに対して国連内でどこからか圧力がかかり、IAEAは調査団を結成できないままである。誰が圧力をかけて妨害しているのかは不明だ。ロシア側は、IAEAが現地に来たらウクライナ軍の仕業だと確定してしまうので米ウクライナ側が妨害していると言っている。(Nuclear Catastrophe Is Gaining Momentum in Ukraine)

原発を警備しているのはロシア軍だ。露軍が自分で守っている原発を自分で攻撃するはずがない。もし露軍が原発を攻撃したのなら、米国側は喜んでIAEAに調査団を作らせて現場に行かせ、ロシアが原発を攻撃して危険にさらしていると非難する。ウクライナ戦争はロシアの優勢、米国側の劣勢で展開しているので、米国側はロシアを非難したくて仕方がない。民生用原発の攻撃などというテロリスト的な戦法を使いたがるのは、負けている米ウクライナ側だ。(Ukrainian nuclear site faces new threat)

IAEAの調査団結成を妨害しているのがロシアであるなら、それも米国側が証拠をつけて非難できる。しかし、米国側はそういうことを全くやってない。ロシアがIAEAに、原発が攻撃されている状況を急いで見に来てくれと頼んでいるのに、誰かが妨害している。国連上層部の妨害者はロシアでなく米英に違いない。米英はウクライナ軍の原発攻撃を黙認している。もしくは、米英がウクライナ軍をそそのかして原発を攻撃させている。いずれもロシアのせいにするためだろう。(Zaporozhye official explains why inspectors can't reach nuclear plant)

ザポロジエ原発への攻撃が止められないと、いずれ核の大惨事になる。EU 諸国も被害を受けるが、EU 上層部はプロパガンダを軽信してロシアを非難している。馬鹿だ。ロシアや中国は、非米諸国の政治力を結集し、国連での米英の妨害策をやめさせようとしている。核惨事と国連の非米化と、どっちが先かという感じだ。(Russia and UN discuss crisis at nuclear plant)

人権擁護団体アムネスティは、ウクライナ軍がロシア軍からの攻撃を避けるため、市民が多く住む市街地の学校や病院などを接收して駐屯する「人間の盾」作戦をウクライナ各地で展開し、市民を危険にさらしていると批判する報告書を 8 月初めに発表した。本来ならウクライナ軍は、自国民の被害を少なくするため、市街地でなく住民が少ない森の中などに駐屯すべきだが、実際は逆に、軍の犠牲を減らすために市街地に駐屯して市民を犠牲にしている。人間の盾作戦は人道犯罪だ。ウクライナ軍(政府軍と極右民兵団)が人間の盾をやっていることは、3 月の戦争初期から知られており、私も何度か記事にした。だがマスコミや権威筋はウクライナ軍の人道犯罪を全く無視するか、ロシア側が発しているウソだと決めつけた。(Amnesty International Says Ukraine's Fighting Tactics Endanger Civilians)

今回、権威ある英国のアムネスティが、ウクライナ軍の人道犯罪をようやく指摘した。ウクライナ政府は激怒し、米国側の権威筋の中からも「利敵行為だ」といって猛然と非難が出た。米国側の「専門家」たちは、ウクライナ政府の反論を鵜呑みにしてアムネスティ報告書の「間違い」を指摘した。(Amnesty further backtracks on Ukraine human rights report)

アムネスティは、ウクライナ政府に謝罪したが、ウクライナ軍が人間の盾作戦をやっているという指摘自体は撤回しなかった。アムネスティは報告書で、ロシア軍も多くの市民を殺していると書いて、バランスをとろうとした。だが、2 月末からの戦争で死んだウクライナ市民の総数は 5 か月間に 5 千人強だと国連が発表している。死者数がとても少ない(アフガンもイラクも、その 10 倍ぐらい死んでいる)。ウクライナ軍が人間の盾作戦をやったが、露軍はウクライナ軍が立てこもる市街地をできるだけ攻撃せず時間をかけてウクライナ軍を排除したので市民の死者が少ない。(Amnesty International apologizes for report critical of Ukraine)

国連はウクライナ市民が 5 千人しか死んでいないと発表しているのに、米諜報界は「ロシア軍はウクライナで 7 万 5 千人の戦死者を出した」と米議会に報告している。市民の死者が 5 千人なら、露軍兵士の死者数は 3 千人ぐらいのはずだ。7 万 5 千人も死んでいるはずがない。米諜報界は開戦直後からずっと「露軍が稚拙な作戦で失敗を重ねている」という、間違っただけの情報を流し続け、米国側のマスコミ権威筋のほとんどがこの情報を軽信し続けている。実際の露軍は、ゆっくり作戦を進めて成功し、ロシア系住民が住むウクライナ東部からウクライナ軍・政府を追い出し、その周辺の南部や北東部のロシア系の地域へと占領を広げ始めてきている。露軍が成功しているので、ウクライナ軍が追い込まれ、テロリ

ストみたいに原発を攻撃したりしている。(US Intelligence Tells Lawmakers Russian Casualties Surpass 75,000 In Ukraine)

8月初めには米国のCBSテレビが、米欧がウクライナに送った兵器のうち3割しか戦闘の現場に届いておらず、残りは行方不明になっていると報道した(その後、その報道はネット上から削除された)。EUの警察は、米欧がウクライナに送った兵器が、ウクライナ政府の上層部によってブラックマーケットに横流しされていると指摘している。これも、ウクライナ政府のひどい腐敗を表している。米欧の政府上層部は、ウクライナ政府が兵器を横流ししていることを知りながら、兵器を送り続けている。(Officials Reveal Haphazard, Chaotic Way Western Arms Are Being Distributed In Ukraine) (Around 30% of Western weapons make it to Ukrainian troops)

米国からウクライナに送られたとされる兵器の何割かは、もともと米国がウクライナに兵器を送っておらず、米国の軍産複合体・諜報界(両者は同じもの)の裏金として使われている可能性も高い。この手の裏金づくりの起源はベトナム戦争(や朝鮮戦争?)にさかのぼる。実のところ、ウクライナ政府より米国政府の方が大きく腐敗している。(米政治家らに横領されるウクライナ支援金)

今回の戦争で、米国もウクライナも上層部がとても腐敗している。米ウクライナの上層部が流す情報の多くも、善悪が歪曲されたウソである。今回の戦争は、米英がウクライナ政府を傀儡化してロシア(国内露系住民)に戦争を仕掛けたものであり、もともと米英が悪く、ロシアは悪くない。ドイツなど米同盟諸国の政府上層部は、これらの腐敗とウソの構図を察知しているはずなのに、見てみぬふりをし、ウソを軽信して「極悪なロシアを勝たせるわけにいかないのに、市民は石油ガスの値段が上がっても不平を言わず、生活が貧しくなっても我慢せよ」と言い続けている。今年の冬にかけて、ロシアから欧州に送られる石油ガスが減り続け、エネルギーや食糧の価格が高騰し、欧米や途上諸国などの人々の暮らしが悪化していく。(Europeans must be willing to 'pay' to support Ukraine)

## ●プロパガンダ拡散の仕組み(2016年6月／2019年3月)

それは我々のメディアシステムの最も重要な側面の一つだが、まだほとんど一般には知られていない。欧米メディアの国際ニュース報道の大半は、ニューヨーク、ロンドン、パリに本拠を置いた3つのグローバル通信社によってのみ提供されている。

これらの機関が果たしている重要な役割は、欧米マスコミが、同じ言葉遣いさえ用いて、同じ話題についてしばしば報道することを意味する。さらに、政府、軍、諜報機関は、これらのグローバル通信社を利用して、メッセージを世界中に広めている。

<https://twitter.com/Jano661/status/1559515894912778240?s=20&t=MLItMeun9GhYWJAp1VYZw>

# The Propaganda Multiplier



Global News Agencies

